

迷彩服

現在、京都本山でずいしん 隨身(修行)している長男から、「陸上自衛隊に入隊したい」と言われたのは昨年末に帰省していた折でした。妻からは薄々聞いてはいました。彼には以前から、お寺の仕事をする前に何年間か他の仕事でお給料を貰う経験をするようにとは言ってありました。頭を下げることを知らない坊さんが多いと感じるからです。だから彼がその通りにしてくれただけなのですが、本人の口から実際「自衛隊」と聞いた時には、今のこのご時世、正直少しですが緊張と不安を覚えました。現在、彼はお寺で集団生活していて、周りの方々からも「止めといた方が良い」と言われたそうです。しかし、月に1~2度の外出許可がでる休日も「長距離歩行」をしていたようで、彼の気持ちは本気だと思い応援することにしました。



彼が自衛官を志すきっかけになったのは、5年前に発生した東日本大震災だそうです。中3の彼に、「報道されている様子をできるだけ多く見て目に焼け付けて、後に震災を知らない若い人にお話ができるようにしなさい」と言ったことは覚えています。将来僧侶になれば、そのことを人前で必ず話さなければならない日が来ると思ったからです。その時、自衛隊が被災地で活動する姿に「すごい仕事だな」と感銘を受けたそうです。よく考えれば、彼を自衛官に導いた元を作ったのは、父親である私自身であると気が付いた次第です。

ここ何年間には自然災害が多く、毎年のように自衛

隊は被災地へ出動しています。今年も熊本地震で風呂の設置や炊き出しの様子をテレビで目にしました。人の役に立てる、やりがいのある仕事をしたい。しかし、それを成し遂げることはどんなに厳しいことでしょうか。現に熊本地震の際も、ある避難所で自衛隊が炊き出しをして温かいカレーライスを提供した際に、『カレーライスは住民の手で、迷彩服は学校にこないで!』という横断幕が一部の人のによって揚げられました。どんなに自らの仕事が否定されても無言で困った人のために働き貫くことは並大抵のことではありません。この時も、自衛官は狭いテントの中で毎食、缶詰を食べていたそうです。

トランプさんが次期アメリカ大統領に決まり、英国の国民投票以来、益々世界が変化しそうです。トランプさんの発言からも日本で起こりうる不安が予想されます。しかし皆が「日本の国」にもっと関心が持てるきっかけになるような気がします。

長男が、少林寺拳法の本部がある高校に在学していた時のことです。学校がある香川県多度津町は瀬戸内海に面した穏やかな田舎町という感じの所で、町役場から正午を知らせる「ポーォ〜」という昔のサイレンが鳴ります。少林寺拳法の本部には、世界各国から研修生がやってきます。研修初日のお昼に役場のサイレンが鳴り始めると、彼らの中には「戦争が始まった!」と勘違いして大パニックになったことがあったそうです。海外の人は常に緊張をもって生活しなければならない人が多いです。私たちも「自分の国」を知り、意識し、色々な局面で考え、自らの意見を持つ時が来たようです。ただ「批判」するだけでは今押し寄せている波に飲み込まれてしまいます。 重いお話でしたね… 俊徳丸